



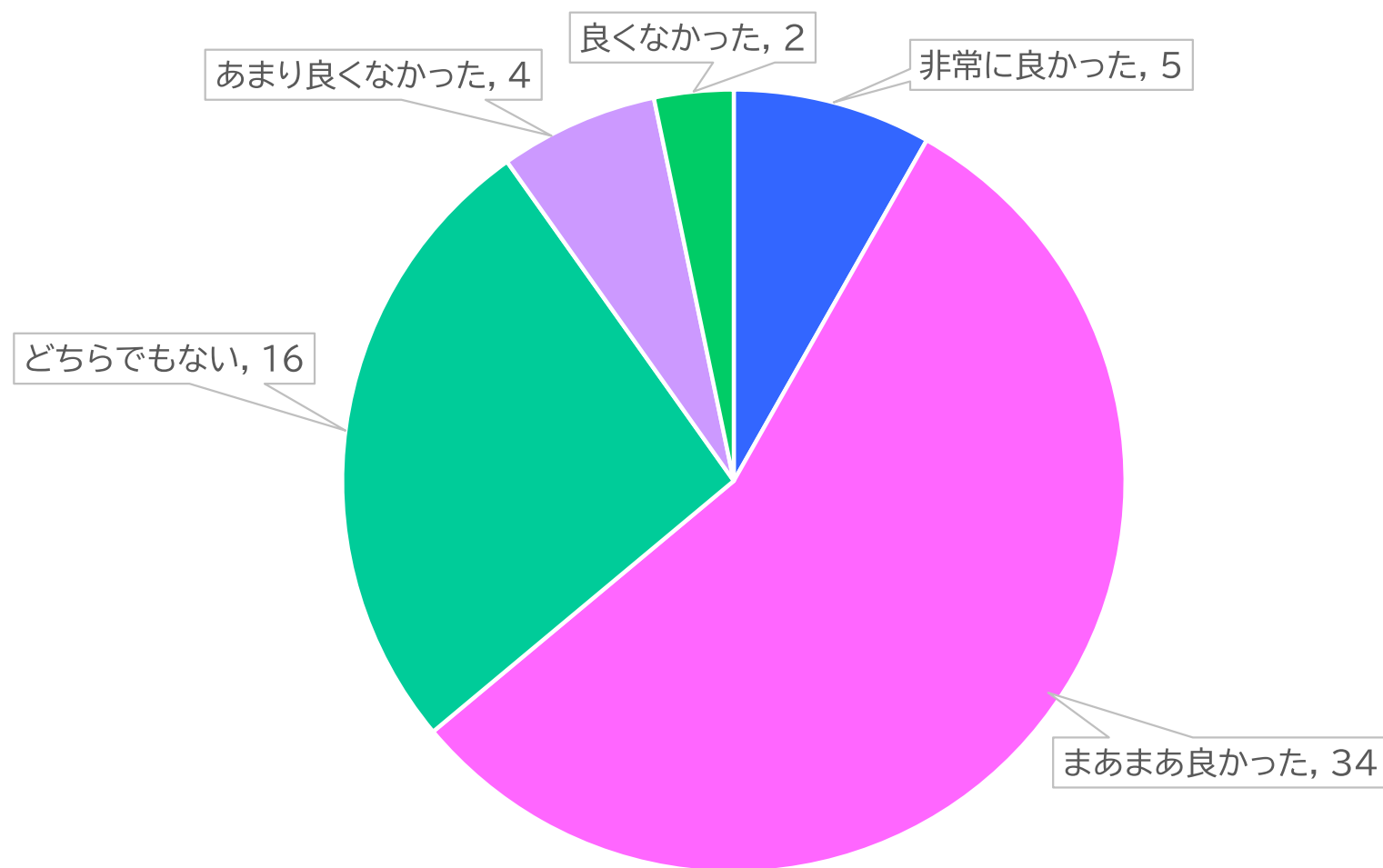
# 中部i-Construction研究会実務者会議 令和7年活動意見アンケート

令和7年のICTアドバイザー活動を振り返ってご意見をいただきました。  
(回答者数:61名)





## 令和7年度のICTアドバイザー活動はいかがでしたか？



■非常に良かった ■まあまあ良かった ■どちらでもない ■あまり良くなかった ■良くなかった





1年間の活動を通して、ご自身にとって良かった点について自由に記入して下さい。



中部i-Con研究会

## 1. 情報共有・学び

- ・ ICT施工に関する最新事例や技術動向を共有できた。
- ・ 他社の取り組みや課題解決の工夫を学び、自社業務に活かした。

## 2. ネットワーク・交流

- ・ 他のICTアドバイザーや業者との情報交換・親睦が深まった。
- ・ 意見交換を通じて視野が広がった。

## 3. 普及・教育活動

- ・ 出前授業に参加し、高校生や若い世代の意見を聞いた。
- ・ 普及部会で学生との交流や業界PRに貢献できた。
- ・ 岡崎工科高校などでの授業参加、他県での普及活動が行うことができた。

## 4. イベント・現場体験

- ・ 現場見学会を主催・参加し、ICT施工の実例を確認できた。
- ・ 建設技術フェアで講師や運営に関わり、貴重な経験を得た。
- ・ 遠隔操作重機のデモを見学できた。

## 5. 個人的成長・役割

- ・ ICTアドバイザーの肩書により信頼度が増した。
- ・ 幹事長や講師としての役割を経験し、責任感と達成感を得た。
- ・ 活動を通じて業務に活かせる知識やスキルを習得した。



中部i-Con研究会



1年間の活動を通して、ご自身にとって反省点や改善点について自由に記入して下さい。

## 1. 参加不足・時間確保の課題

- ・業務多忙や日程調整の難しさで活動にほとんど参加できなかった。
- ・会議やWGへの出席率が低く、発言機会も少なかった。

## 2. 情報共有・議論の不十分さ

- ・部会やWGで議論時間が限られ、深掘りできないテーマが残った。
- ・資料フォーマットや更新タイミングが不統一で理解に差が生じた。
- ・会議が決定報告型になりがち

## 3. コミュニケーション不足

- ・アドバイザー全員が活躍できる場を増やす必要あり。
- ・WEB会議では発言しづらい雰囲気、対面機会の不足。

## 4. 運営面の課題

- ・メンバーで活動への温度差が大きく、活動の一体感不足。
- ・講習会講師などで経費負担があり、インセンティブ検討の要望。

## 5. 個人的課題

- ・ICT活用履歴に偏りがあり、知識不足を感じた。
- ・話が難しく理解できない場面があった。





運営に対する意見(Webex、メーリングリスト、クラウドサーバ等、情報共有や支援)について自由に記入して下さい。

## 1. Webex

- ・遠隔地からでも参加しやすく、非常に有効との声多数。
- ・部会日のアナウンスが遅れることがあり、早めの告知を希望。
- ・投稿通知をメールで受け取れる仕組みがあると便利。
- ・接続環境の不安定さ（webexに限らず）  
音声・映像が不安定な場面があり、事前接続確認や録画配信の仕組みを整備。

## 2. メーリングリスト

- ・件名や配信ルールを統一し、情報把握を容易にしたい。

## 3. クラウドサーバー

- ・資料共有に役立ち、情報収集が容易になった。
- ・フォルダ構成や更新履歴が不十分あるため、アクセス権限や管理ルールの明確化。
- ・Webex・クラウドサーバで情報が分散し、アップロードに気が付かないことがある。
- ・検索性を向上してほしい。

## 4. 事務局運営

- ・体制が確立されてきてやりやすくなってきた。
- ・新規メンバーへのツールの使用方法や操作方法の説明、ガイドの作成を希望。

## 5. その他の要望

- ・毎年の要領改訂時にポイント解説を行ってほしい。





これまでのICTアドバイザー活動で、継続すべき活動、さらに強化して取り組むべき活動、ひと区切りつけて取組み内容を整理した方がよいと思う活動など、今後のICTアドバイザー活動の方向性

## 1. 今ある活動について

### 出前授業WG

◎若手育成・業界PRに効果的。高校生や先生方のICT理解促進に寄与。

### 施工計画書事例集・3次元設計データ事例集・

◎現場での普及に有効で、引き続き重要。

△ICT施工計画書や3Dデータ活用事例は一部整理が必要。

### 現場見学会WG・WEBセミナーWG

◎実体験を通じて理解を深める場として評価が高い。

### 建設技術フェアWG

△運営負担が大きく、効率化や縮小を検討。

### FAQ部会

△ここ数年ほとんど機能していないため休止提案あり。

## 2. その他の提案

- ・未経験者向けのガイドや導入支援を強化。
- ・ICT活用工事の手引き再整備。
- ・アドバイザーの専門性を活かした役割分担（建機・測量・ソフト等）。
- ・新技術対応（BIM/CIM、遠隔臨場、AR、AIなどi-Construction全般への拡大）。
- ・ICT施工セミナーの体系化
- ・ICTアドバイザー認知度向上







今後のICTアドバイザー活動で取り組んでみると良いと思う課題があれば、自由にご提案して下さい。

## 1. 地域活動の強化

- ・ 県単位の説明会・講座 : 県職員・市町村職員向けにICTの現状を伝える場を設ける。
- ・ 地域部会・支部活動の発足 : 部会・WGテーマを地域に展開し、普及活動を強化。
- ・ 現場見学会の地域拡大 : 尾張地区など未開催地域での実施希望。

## 2. ICTアドバイザー間の交流促進

- ・ 月例会・勉強会の開催 : 持ち回り講師による事例発表や意見交換を定期的を実施。
- ・ 対面機会の確保 : Web会議だけでなく、最低1回は直接顔合わせを希望。
- ・ ICON大賞などの企画 : アイデアや事例を共有し、表彰制度でモチベーション向上。

## 3. 情報共有・認知度向上

- ・ 活用事例を体系化し、データを整理・閲覧可能にする。
- ・ HPやSNSを活用したQ&Aや情報発信。
- ・ 活動報告は結果だけでなく途中経過も共有。

## 4. 新技術・教育への対応

- ・ AI活用事例の紹介 : 建設業におけるAIの活用を取り入れる。
- ・ VR・3Dの活用 : 新人教育や地元説明資料として有効。
- ・ 新技術・新商品の案内 : 建機系・測量系・ソフト系アドバイザーによる情報提供。

## 5. インセンティブ・制度面

- ・ 活動負担に見合うインセンティブの検討。
- ・ 国交省による功績評価や表彰制度の導入。





ICTアドバイザーはどのような活動を行うものであるか、なにを目的に  
していくとよいか、認識を深めたこと、変わったことなど、意義や気づき  
についてご意見・ご感想

## 1. ICTアドバイザーの役割認識

- ・技術支援にとどまらず、現場と行政・企業をつなぐ役割は不可欠。
- ・技術普及だけでなく、人材育成・業務効率化も重要な目的。

## 2. 活動の意義

- ・出前授業で学生の進路に影響を与え、業界の魅力を発信する活動に価値を感じた。
- ・ICT活用を広めることで地域課題解決に寄与。
- ・発注者や施工業者との対話を通じて自身の成長を実感。

## 3. 認識の変化

- ・ICTアドバイザーは「技術を広める人」ではなく「現場に根付かせる人」。
- ・持続的な成果には、現場担当者が自らICTを活用できる体制づくりが必要。

## 4. 活動を通じた学び

- ・他社の取り組みや新技術に触れ、知識レベルを高める必要性を痛感。
- ・i-ConstructionやBIM/CIMなど、より広範な技術への理解が求められる。
- ・SNSやWeb講習会など、情報発信手段の多様化が重要。

## 5. 課題・提案

- ・名ばかりアドバイザーの排除や定員見直しを求める声。
- ・無償活動の限界 → 費用負担の公平化。







## 1. 発注者側へのアプローチ

- ・ ICTの目的・効果を正しく理解させることが重要。  
抵抗感をなくすための講座や説明会を提案。
- ・ 発注者の理解不足・予算制約が最大の壁。

## 2. 制度の標準化

- ・ 国レベルでの標準化を地方にも浸透させる。
- ・ 地方自治体の要領を統一化し、監督員との協議を円滑化。

## 3. 中小企業への支援策

- ・ ICT機材・ソフトの補助金制度や低コストツールの提供。
- ・ クラウドや機材を複数企業で共有し、負担を軽減。
- ・ 自治体や業界団体による現場担当者向け研修や相談窓口設置。
- ・ ICT施工導入企業の事例を発信し、効果を可視化。

## 4. 地域活動・普及促進

- ・ 受発注者問わず政令市（名古屋・静岡・浜松）へのアプローチ強化。
- ・ ICT施工を1回無料で請け負い、効果を体感させる。

## 5. 課題認識

- ・ 高齢化によるICT対応困難 → システムや要領の簡素化が必要。





## 1. 地域・企業への還元

- ・自治体職員や地域企業向けに、アドバイザー主導の基礎ICT研修を開催。
- ・地域グループ活動

## 2. アドバイザー間のネットワーク強化

- ・情報共有・課題共有の仕組みを強化し、個々の経験を組織的知見へ発展。
- ・WG情報共有の確実化。

## 3. 若手育成・多様性

- ・大学・専門学校との連携、教育プログラムやインターンシップの実施。
- ・若手アドバイザーの導入と多様化を図り、現代社会に合った活動へ。

## 4. 運営改善

- ・任期延長（3年程度の任期を希望。）
- ・幹事長・幹事の負担軽減のためのサポート体制構築。

## 5. 情報発信・広報

- ・WEBセミナーをYouTube配信やSNS活用による情報発信。
- ・ICT施工の効果（工期短縮・品質向上・コスト削減）を「見える化」

## 6. 技術面の提案

- ・CIMデータ取り扱いへの対応。
- ・ICT建機や出来形管理の魅力発信。

